大学図書館員の専門性：アメリカの状況

2023年3月4日
日本図書館情報学会臨時シンポジウム

帝京大学共通教育センター
上岡真紀子
mueoka@main.teikyo-u.ac.jp

本日の内容

- 大学図書館を取り巻く環境
- 大学図書館員の専門性
  - 既存・新規
- 大学図書館員の新たな専門性に関する合意
- 能力開発の機会
- ポジションの設置と人材供給
- 比較と課題

大学図書館を取り巻く環境

- テクノロジー
  - テクノロジーの劇的進化：デジタル，ネット， AI， XR
    → 情報のあり方・コミュニケーションの変化
    生活・職業に影響

- 高等教育
  - 高等教育（改革）の要請：21世紀型人材，学習者中心
    → 教授・学習への考え方・実践の変化
    大学の使命・優先事項に影響

- 大学図書館の対応
  - 情報（知）へのアクセスの保証（legacy, new, edge）
  - 情報（知）の生産とコミュニケーションの支援（new, edge）
    → 「21世紀の大学図書館」に向けた戦略計画の立案と実施
    新たな知と情報源，ツール，新たなスペース，インフラ，
    新たなサービスへの対応
    → これらへの重視を表し，実現を担う，新たな専門ポジションの設置

大学図書館員の専門性（既存のもの，2000年代まで）

- 情報リテラシー（教育）：

  情報資源と、それらへのアクセス、評価、効果的な利用方法について知識がある。学生や教員に研究の進め方、情報の見つけ方、出典の引用の仕方などを教えることができる。また教員と協働して、授業やカリキュラムを開発することができる。

- コレクション・ディベロップメント：

  大学図書館の所蔵資料の選択、入手、管理に関する専門知識を持っている。教員や専門分野担当者と密接に協力し、図書館のコ レクションを通じて大学の研究と教育プログラムのニーズを満たすことができる。

- インフォメーション・テクノロジー：

  図書館の運営とサービスをサポートする図書館システム、データベース、その他のテクノロジーツールに精通している。図書館サービスを向上させるためのテクノロジーソリューションの導入や管理も行う。

- 学術コミュニケーション：

  学術出版、著作権、オープンアクセスに関する専門知識を持っている。出版や知的財産に関する問題について、教員や学生を指導する。

- マネジメント：

  図書館の運営、スタッフ、予算の管理経験がある。図書館の戦略計画や方針策定にも携わる。

その他にも…

- 科学、社会科学、人文科学、法学など特定分野の専門知識を持つ。
- 研究プロジェクトの開発のために教員と提携、リソースや専門知識の共有のために他の図書館や組織と協力するなど、アウトリーチやエンゲージメント活動にも携わる。

大学図書館員の新たな専門性
ACRLトップトレンドから

2012	2014	2016	2018	2020	2022
価値を伝える	学生の成功	学習のエビデンス:学生の成功，学習分析，資格認定	フェイクニュースと情報リテラシー	学習分析	COVID関連の動向
高等教育	コンピテンシーに基づく学習	高等教育のための情報リテラシーの枠組みの新たな方向性	学習分析，データ収集，倫理的懸念	社会正義，批判的（クリティカル）ライブラリアンシップ，批判的デジタル教育学	スペース利用
デジタル保存	デバイスニュートラルなデジタルサービス	フレームワークにおけるクリティカル情報リテラシー	教科書の手頃な価格とOER	統合図書館システムの進化	共同コレクションとプリント（冊子体）共有の成長
パトロン主導の電子書籍のアクイジション	デジタル・ヒューマニティーズ	コレクション評価の傾向	コレクション管理	機械学習とAI	AI
情報テクノロジー	高等教育におけるオープンネスの進化	オープンな教育リソース	アクイジションモデルの開発	オープンアクセス：遷移と変換	全てをオープンにする
モバイル環境	オルトメトリクス	デジタルスカラシップ	レガシープリントコレクション	チェンジマネジメント：新しいリーダーシップのための新たなスキル	図書館スタッフの課題
ユーザーの行動と期待	データ	ILSとコンテンツプロバイダー/フルフィルメントの合併	出版社とベンダーの状況	Research Data Services(RDS):倫理と成熟	批判的（クリティカル）ライブラリアンシップ
学術コミュニケーション		アルトメトリクス	オープンアクセスコレクションの開発ポリシーと資金調達スキーム	学生の健康（ウェルネス）	データ
人員配置		新たなスタッフのポジション	図書館におけるプロジェクト管理アプローチ		
データキュレーション		研究データサービス（RDS）	研究データセットの取得，テキストマイニング，データサイエンス		
		データポリシーとデータ管理計画			
		RDS（Research Data Services）を提供する図書館員の専門能力開発			

大学図書館員の新たな専門性：
過去10年間のACRL環境スキャン・トップトレンドから

- アセスメント：Assessment Librarian

  図書館サービスおよびリソースの影響と効果を測定するための評価戦略の開発と実施に重点。評価基準の策定、ユーザー調査の実施、意思決定のためのデータ分析などを担当する。

- データマネジメント： Data Services Librarian

  データ駆動型研究がますます重視される中、大学図書館員は研究のライフサイクルを通じて研究者のデータ管理を支援することに、より深く関わるようになってきている。これには、データの保管、整理、保存、共有のサポートが含まれる。

- デジタルスカラシップ： Digital Scholarship Librarian
  - 大学図書館員は、デジタルツールや方法を用いて研究を行い、新しい知識を創造し、その結果を共有するデジタルスカラシップの支援にますます関与するようになっている。これには、デジタル資料へのアクセスの提供、デジタル研究基盤の開発、学者間の共同研究の促進が含まれる。

- 多様性、公平性、包括性: Diversity, Equity, and Inclusion Librarian

  大学図書館員は、大学における多様性、公平性、包括のイニシアチブの支援にますます関与するようになっている。これには、多様な視点を代表するコレクション・ディベロップメント、知識へのオープンアクセスの促進、過小評価されている(underrepresented)グループを支援するリソースやサービスの提供などが含まれる。

- ユーザーエクスペリエンス: User Experience Librarian

  大学図書館員は、図書館のサービスや資料のユーザーエクスペリエンスを向上させることに重点を置くようになってきている。これには、図書館利用者のニーズをよりよく理解するための利用者調査の実施、図書館システムのユーザーフレンドリーなインターフェースの開発、図書館リソースの利用を助けるためのトレーニングやサポートの提供などが含まれる。

＊情報リテラシー，学生の成功：Information Literacy Librarian, Student Success Librarian

教員と協働により，情報リテラシー教育プログラム（全学，学科，科目レベル，カリキュラム，到達目標，課題の開発）の開発と指導、レファレンスとリサーチへの支援、教材作成、情報リテラシー・プログラムの評価を行う。

学習支援プログラムの開発と提供、学内パートナーとの協働、レファレンスとリサーチ支援の提供、教材・資料の作成と管理、学生支援プログラムの評価を行う。

大学図書館員の新たな専門性に関する合意

- 米国図書館協会，カレッジ・研究図書館協会 (Association of College and Research Libraries, American Library Association)が果たす役割が極めて大きい
- 大学図書館員の専門性に関してもリーダーシップ
  - 方向性，将来計画の作成（環境スキャン，トレンド）
  - 指針，基準，白書などの作成
  - 議論の場の提供
  - ネットワークの機会の提供
  - 能力開発の機会の提供
- 大学図書館と大学図書館員の代表として，

  民主的・包括的・内発的
- 外部に対して，

  アピール，交渉，連携，political

（参考）近年出された白書・報告書

- 大学図書館の価値，アセスメント
- データマネジメント
- 環境スキャン，トレンド
- 大学図書館と高等教育の将来
- 情報リテラシー
- 知的自由
- 学術コミュニケーションと著作権

能力開発の機会：ある教育担当図書館員の1週間

- 月曜日、ある教育担当図書館員（instruction librarian）は、約1,000人の同僚とともに、情報技術の教育・学習の実践と研究を目的とした専門カンファレンスに出席し、職場に戻りました。そこで彼は、ワンショットの指導にいかに閾値概念（threshold concept)を組み込むかについてのプレカンファレンスに参加しました。また、ライティングの教員と協力して反転授業の学習コンテンツをデザインすることに関するのパネルディスカッションにも参加しました。
- 月曜日の午後には、カンファレンスのウェブサイトにスライドデッキをアップロードし、聞き逃したプレゼンテーションもいくつかダウンロードしました。
- 火曜日には、学習評価の新しい基準を作成するACRLの委員会のバーチャルミーティングに参加しました。会議の後、同僚の図書館員が委員会の最終的な基準についてコメントしたTwitterのコメントを30分かけて確認し、その後、電子ディスカッションリストで他の図書館員と意見交換をしました。その夜、彼は受講しているインストラクション・デザインについてのMOOCに投稿された新しいビデオを視聴しました。
- 水曜日の朝には、教員が講師を務めるウェブキャストに参加し、脳に関する新しい理論と学生がどう学ぶかについて話を聞きました。
- 木曜日の午後には、他の教育担当図書館員とブラウンバッグ・ディスカッションを行い、図書館員が学術的なコミュニケーション・プロセスの仕組みを学生に理解させるためにより多くの時間を割くべきだという論文について議論しました。
- 金曜日には、大学の教育学習センターで行われた1時間のラーニング・サークルに出席し、他の教員たちと一緒に、学生にいかに議論するためのスキルを身につけさせるかについて学びました。

(Steven Bell “Professional Development, Expert Networking, Evolving Professional Identity, and the Future Roles of ACRL”.より）

能力開発の機会

- 各年で開催される大会：シンポジウム，パネルディスカッション，ディスカッショングループ，ワークショップ
- ウェビナー
- ロードショー
- メーリングリスト

- その他にも専門カンファレンス
- チャプター（地区）

ポジション設置と人材供給

- 公式な教育からの供給
  MLIS, iSchoolのカリキュラムで対応
- 専門的技術サポートには技術職員（altac）を雇用するケースも
- 既存の図書館員の配置転換：
  例）
  サブジェクトライブラリアンから
  データライブラリアン，デジタルスカラシップライブラリアンへ

- これらを支えているのは，プロとしての専任図書館員

比較と課題

- 専門性の内容に関しては，グローバル化の進行により，米国と日本で差はない
- 新たな専門性は全く新規のものでなく，既存の専門領域を拡張したものであり，従来の専門性の延長線上で捉えられている
- これらの専門性の特定，およびそれらへの対応は，大学図書館界全体の重要な責務と捉えられている
- 日本との違いは，これらの専門性にいかに対応するかの方法や体制にある

➢方法・体制の側面から見た場合に，

- 日本には（ACRLのような）大学図書館界全体を束ねるリーダーシップは存在していない
- 今後，政策は必ずしも図書館界が望む方向に進まない可能性がある
- その中で，日本の大学図書館界は専門性への対応にどう責任を持って取り組むのか
- 大学図書館員の専門性と対応は，大学図書館界の未来だけでなく，高等教育の国際的競争力そのものにも影響を与える